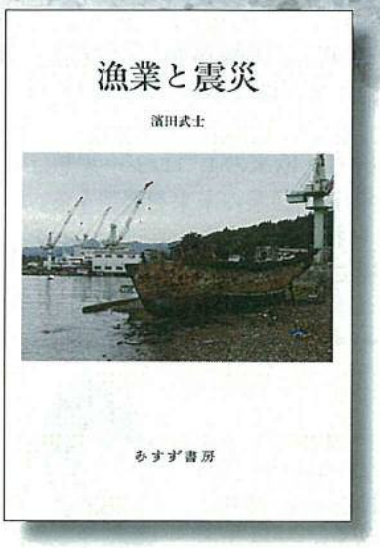
経済一辺倒の社会に「人のなりわい」をとり戻すには。危機の漁業を再生し、
自然・集落・食文化を守るための、被災地に立つ漁業経済学。

濱田武士

漁業と震災

2013年3月8日発売

漁民が「自治・参加・責任」の精神で漁場を共同管理する近世からの伝統は、戦後は漁業協同組合（漁協）に受け継がれた。いま、「協同」の力がふたたび問われている。



東日本大震災で東北・常磐の漁業集落は壊滅的状態となった。漁業にとってこの震災は「天災」、原発事故のような「人災」、そしてメディアや風評被害など情報が破壊的な力をもった「第二の人災」からなる複合災害であった。

政権内では「農地・漁港の集約化」をめざす「食糧基地構想」が浮上し、漁業権を民間会社に直接免許する「水産特区」も法制化された。宮城県は行政主導で漁港整備に選択と集中をかかげ、岩手県は全漁港の復旧を現場に託す。福島・茨城県の漁民は原発災害の対応に苦しんでいる。

高齢化、魚資源の減少、輸入水産物との競合。放射能の海洋汚染、ＴＰＰ交渉。漁業は困難な時にある。かつて木材の輸入自由化で林業が衰退、山林が荒れたように、生産活動を行いつつ自然を守ってきた漁業集落が壊れれば、浜と海は荒れるだろう。

多様な個性を備えた暮らす人、働く人の「人格」の復興がなければ地域の再生はありえない。成熟した社会としての安定もない。経済一辺倒の現代社会に「人間のなりわい」をとり戻すためにはどうしたらよいか、漁業経済学者が考えぬいた。統計資料、図版多数収録。　四六判　320頁　定価3150円（税込）　ISBN978-4-622-07752-7

［写真：再開したカキ養殖（宮城県唐桑）］

http://www.msz.co.jp　みすず書房　〒113-0033 東京都文京区本郷5-32-21
tel. 03-3814-0131 fax. 03-3818-6435

経済一辺倒の社会に「人のなりわい」をとり戻すには。危機の漁業を再生し、
自然・集落・食文化を守るための、被災地に立つ漁業経済学。

濱田武士＝著

漁業と震災

四六判　320頁　定価3150円（税込）　2013年3月8日発売

［目次］

はじめに　天災と人災
第一章　太平洋北海区の水産業と被災地
第二章　被災と被害
第三章　漁港と漁村
第四章　復興方針と関連予算
第五章　食糧基地構想と水産復興特区
第六章　水産業の再開状況
第七章　揺らぐ漁業協同組合
第八章　メディア災害の構造
第九章　放射能の海洋汚染と常磐の漁業
第十章　地域漁業のゆくえ
終章　日本の自然のなかの漁業
あとがき

■本書の特色■

- 三陸・常磐の漁業の歴史や特徴を紹介。豊富な統計資料・図表・写真とともに　東日本大震災の被害状況や経過、復興の歩みをえがく。
- 漁村、漁港都市の成り立ち、地域間の関係から水産業の地理的特徴を解説し、都市と漁村の関係の在り方を展開する。
- 「食糧基地構想」「水産特区」など、行政が打ちだした改革論の問題点をわかりやすく提示。
- 原発災害に苦しむ常磐地域の漁業の姿を追い、そこにある社会災害の本質について論じる。
- 地産地消、漁船や養殖施設の共同使用、漁場輪番制、漁法開発、漁業者と流通　業者の連携など、さまざまな現場の取り組みを紹介。
- 西欧諸国で導入が進む漁獲割当制度や　欧米のエコロジー思想は日本漁業を救うのか。世界のなかの日本漁業の未来を展望する。
- 日本で最も協同組合らしい組織といわれる漁協に「協同」の力をとり戻す、 漁業者、生産者の立場にたった漁業再生を考える。

［写真：右は、瓦礫となってしまった漁船を撤去する（気仙沼）
左は、日立市内の飲食店に貼られた、地産地消をよびかけるポスター。

濱田武士
（はまだ・たけし）

1969年大阪府吹田市生まれ。99年北海道大学大学院水産学研究科博士後期課程修了。各地の漁村、漁協、卸売市場に赴きながら研究する。2002年東京水産大学助手をへて、現在、東京海洋大学准教授。専門は漁業経済学、地域経済論、協同組合論。水産政策審議会特別委員、釜石市復興まちづくり委員会アドバイザー、日立市水産振興計画策定委員会委員長、福島県地域漁業復興協議会委員、全国漁業協同組合学校講師などを務める。単著に『伝統的和船の経済――地域漁業を支えた「技」と「商」の歴史的考察』（2010年、農林統計出版刊、漁業経済学会奨励賞受賞）。

全国漁業協同組合のみなさまへ

濱田武士『漁業と震災』（3月8日発売）を、まとめてご購入の際は、
小社営業部までご相談下さい。　tel.03-3814-0131　fax 03-3818-6435

http://www.msz.co.jp　みすず書房　〒113-0033 東京都文京区本郷5-32-21
tel. 03-3814-0131 fax. 03-3818-6435